

小学校5、6年生、中学生の少人数教育について（令和2年度少人数教育推進検討委員会報告書より）

1 25人学級編制の導入について

…（１）（２）省略…

（３） 小学校5、6年生について

小学校5、6年生の時期は、教科等における学習内容が中学年よりも抽象的かつ専門的になるとともに、学校の上級学年として、自治的・自発的活動において中心的役割を担っていく段階となる。

また、この時期の児童は、思春期にさしかかり心身の成長の差が大きくなり、人間関係などの悩みを抱きはじめながら、多様な他者と切磋琢磨しつつ互いの価値観を認めることの大切さを実感していくとともに、中学校への接続を意識しながら小学校教育を進めていく時期となる。

そのため、こうした発達段階の時期において、児童の多様性を生かした集団活動を行っていくためには、児童の相互の関係や様々な役割分担を築くことができるようにするために、ある程度の集団規模による学級編制を行うことが望ましい。

集団規模が大きくなることに伴い、学習面における一人一人の児童の状況に応じたきめ細かな支援が求められることになるが、令和4年度からは一部の教科において教科担任制が導入されることから、教師の専門性を生かした質の高い教育が行われることが見込まれる。

また、中学校教育との円滑な接続の観点から、小学校5、6年生においては中学校と同様に、ある程度の集団規模による学級編制が望ましいと考えられる。

以上のことを踏まえ、この時期における少人数教育の推進についても、国の動向を注視しながら引き続き検討することが求められる。

（４） 中学生について

この時期は、多くの友達と触れ合い、豊かな人間関係、多様性に対する認識を広げることが重要であり、多人数の学級編制により授業や学校行事において教育効果が高まることが期待できる。こうした観点から、中学校においてもある程度の集団規模による学級編制が望ましい。

このことは、昨年度の検討委員会においても指摘されていることであり、中学校における少人数教育の推進についても、このことを踏まえつつ、国の動向にも注視しながら検討することが求められる。